

(事業番号) 事業名 2-① ダイオキシン類の新たな計測手法に関する開発研究

<p>現状分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進体制に問題はないが、研究費が研究目標に対して少なかったように思われる。 ・ このテーマは、研究環境の欄に記載されている如く、「自治体、企業、分析機関等から要望の多い」取り組みであり、実用化と早期の現場導入をにらんだ成果が求められるものであるが、進捗状況報告からはこうした到達度が読み取れない印象を持つ。 ・ 予算の不足が大きなネックとなっている旨の記載があるが、「実用化」に至る過程で具体的にどのような予算措置を折衝ないし希望しているのかを記載してはいかかと思う。 ・ 現場での測定の実験まで進んでいない。全ての異性体でなく幾つかを標的にする戦略をさらに推し進めるのが近道か？ ・ 低分解能 GC/MS による測定は、ダイオキシン濃度が高い試料の分析には有効であるが、測定精度を維持して、しかも迅速な分析を行うためにはクリーンアップ操作の迅速性を高めることが必要だと考える。 ・ 研究プロジェクトチームの体制は良好と思われる。
<p>実施目標の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終目標に到達できていない。今後、機会を得てオンサイト測定手法を完成させることが望まれる。 ・ 平成 14 年度課題については、予算不足（担当者の弁）の中で、まずまずの取り組みであったと思われるが、全体としての望まれた到達点に達したとの印象は今一歩かと思う。 ・ 今一息という所？ ・ 研究は計画通り進展している。 ・ 特に移動測定車への搭載機器の試作の実現は本プロジェクト期限内で達成可能？
<p>具体的改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を適正なものとするべきであったと思われる。 ・ 問題解決に向けての現場での活用が望まれる課題であるが、このまま終了するのだろうか？予算の重点化を含め、最終的な成果物を得る方策が必要ではないか？ ・ 現場での検討を急ぐこと。 ・ 開発した方法迅速分析法の実用化を図るためには、多くの試料について簡易測定法と高分解 GC/MS を用いた方法による測定値の比較を積み重ねていく必要がある。 ・ 開発困難であるとの自己評価であるが、テーマの重点化をもって、どのように成果をあげることができるか？
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌対策などの世間情勢から、オンサイト分析に関しては要望が高まる気がするので、継続されるならばこの方面に注力されてはいかかかと思う。

2-② ダイオキシン類の曝露量及び生体影響に関する研究

<p>現状分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学研究におけるインフォームドコンセントは難しい問題であるが、もっと柔軟に多様な解析が出来るように展開できないか？。 ・ 曝露指標と影響指標の概念が整理されないまま複数の研究が行われている印象であり、ここから得られる成果が生かせるイメージが描けない。 ・ 調査の母数や集団の規定などの情報がなく明確なコメントはできないが、実測値を含む疫学的な取り組みで十分な考察が出来る規模に達していない印象がある。 ・ エストロゲン応答遺伝子の中で TCDD 曝露によって変動する遺伝子に着目しているとあるが、TCDD の影響(毒性)を規定する遺伝子がエストロゲン応答遺伝子とどのような関係にあるのか？すでになんらかの基礎的な情報があるのか？マイクロアレイは多数の遺伝子の変動が検出できる反面、着目点を間違えると、変動多くして何も語れずという状況になるのではないかと危惧する。 ・ おおむね適切である。
<p>実施目標の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学研究におけるインフォームドコンセントの困難さにもかかわらず随分進んだと思われる。 ・ 平成13年度までの検討対象(血液)から母乳に変更されたがサンプリングの段階からうまくいっていない状況が窺える。サンプリングに際してなかなか難し課題があるような気がする。 ・ 遺伝子の検討においても、詳細と将来のリスクマネジメントに役立つ知見としての背景説明が不明(。 ・ CYP1A1 多型へ着目した取り組みについては進捗あったような印象(詳細不明)を受ける。 ・ ほぼ達成している。
<p>具体的改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体に、諸検討で得られた「成果」がどのように有効なのか(そういう可能性があるのか)という作業仮説があいまいなような印象が強いので、もし継続されるならば、焦点を絞り込んで集中して行う必要ありと感じる。 ・ 特になし。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・

(2-③) ダイオキシン類簡易測定法検討

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 検討内容に事業2-①との重複があるように思える。2-①との相違点として昨年度の取り組み状況回答(対応方針)で紹介されたバイオアッセイ法があるが、具体的な進捗について説明が欲しい。(高橋)・ 現行公定法と簡易法の比較が急務である。・ 適切に運営されている。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・ 調査については概ね予定通り推移していると考えられる。・ 全体的な目標達成度は必ずしも満点とは申せぬ印象。・ ほぼ順調と推察されるが、報告書類から全容を把握することは容易でない。・ 簡易分析マニュアルの作成にむけて順調に達成されてきている。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・ 今後もし継続されるに当たっては、バイオアッセイ手法に関する検討事業を重点化するなど、類似事業との相違を明確にしてはいかがかと考える。・ 低分解能GC/MSを用いる方法では、2-①のテーマとの内容的な仕訳がやや不明瞭である。より明確にして実用化に寄与するように図るべきである。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 他の機関で進められている簡易測定法との比較は？

16

(3-①) ダイオキシン類未規制大気汚染源対策等検討

現状分析	<ul style="list-style-type: none">・ 44 基準点の測定はこれまでと同じであるが、未把握排出源調査の調査箇所がこれまでと同数または減少しているにも関わらず、平成 14 年度予算が大幅に増額されたのはなぜか？（実施委託先が変更されたためか？実施委託先選定の基準はなにか？）・ 窯業、未規制小型焼却炉、火葬場、等からの排出実態が明らかになるなど着実に前進。ただし、予測されない排出源に対する対応策はこれからである。・ 目的に照らし体制、方法等妥当である。・ 適切に推進された。
実施目標の達成度	<ul style="list-style-type: none">・ 予定通りと考えられる。・ 達成している。・ 着実に目標達成にむけた努力がなされた。
具体的改善点	<ul style="list-style-type: none">・ 定点測定（継続的な取り組み）と排出源把握（これらへの将来的な対策立案）のプロジェクトを分けて実施してはいかがかと思う。・ 全国の基準点の検討、さらにそこでの持続的観測のシステム作り（思いがけない発生の検出と対策の為に）。・ 良くなされており、改善を求める点はない。
その他	<ul style="list-style-type: none">・